

## —目次—

- 川端香男里先生を悼む
- 2021 年度研究大会(2021 年 10 月 16 日 17 日大阪大学)自由論題報告募集(締切 6/30)
- 『ロシア・東欧研究』『Japanese Slavic and East European Studies』投稿募集(締切 9/15)
- 最近の理事会の議事録より
- 事務局からのお知らせ

## 川端香男里先生を悼む

川端香男里先生が、2021 年 2 月 3 日、87 歳で亡くなられた。ロシア文学者・比較文学者としての川端先生の驚異的な学識の深さと視野の広さについては、足元にも及ばない不肖の弟子である私などに過不足なく語ることは到底できないし、東大の本郷（文学部）で木村彰一先生の後を継いで、栗原成郎先生とともに露文科（後、スラヴ語スラヴ文学専修課程）を支え、発展させ——現在活躍している日本のロシア文学研究者の相当な部分が川端先生の教え子である——さらにロシア・東欧学会や日本ロシア文学会、JCR EES などの学協会の会長・代表などを歴任した先生の大学および学会での活躍ぶりもまた私の把握できる範囲をはるかに超えているので、いったい自分に何が書けるのか、戸惑うばかりである。

川端先生の経歴および業績の詳細については、少し古く 1994 年の時点のものだが、東京大学スラヴ語スラヴ文学研究室年報『SLAVISTIKA』第 11 号に掲載された、質・量ともに圧倒的な「略歴・業績目録」に譲るしかない。またロシア・東欧学会での川端先生の役割については、『ロシア・東欧研究』第 37 号（2008 年）に、当時の事務局長であった羽場久美子氏による「川端香男里元代表理事へのインタビュー」が掲載されており、この学会の歴史にとって非常に貴重な証言になっていることを書き添えるにとどめ、ここではもう少し個人的な思いを書かせていただきたい。

先生の姿を初めて見たのは、1973 年 4 月、東大駒場のキャンパスで、「第三外国語」としてのロシア語の授業の教室でのことだった。文字や初等文法の説明なのに、最初からギリシャ語、ラテン語が飛び交い、フランス語やドイツ語との比較が次々に飛び出す。大学とはこういう場所なのだ、本物の学者とはこういう人なのだ、と初々しい新入生は強烈な印象を受けた。高校時代から既に川端先生の著書『ユートピアの幻想』やザミャーチンの『われら』の翻訳に親しんでいた私にとって、川端香男里とは憧れの名前だった

(ひょっとしたら女性かな、とその名前から半ば想像していたのだが……)。

後から考えると、この第一印象はきわめて正確なものだった。ロシア文学を中心に据えながらも多言語能力を武器にして常に幅広い比較文学的な視野からアプローチすることが川端先生の学風の第一の特徴だったからだ。先生はもともと東京大学教養学科のフランス科に学び、その後比較文学の大学院を経てまずソ連よりも先にフランスに留学しており、そういった経歴からすればこれは当然のことではあったのだが、当時の日本におけるロシア文学業界にあって例外的なことだったと言ってもよい。

第二に、当時の日本ではロシア文学といえば実質的に 19 世紀の小説と 20 世紀のソ連文学に限られていたのに対して、川端先生はそういった伝統的な枠の外にあった分野を次々に切り拓き、精力的に紹介し続けた。レールモンツフから、チュツェフ、ブロークに至る詩の読解、リアリズム一辺倒のロシア文学界で見過ごされてきた幻想文学の発見、世紀末から 20 世紀初頭の手付かずだったモダニズム文学の紹介（ペールイ、ザミヤーチン、ピリニャーク）、ロシア・アヴァンギャルド、ロシア・フォルマリズム、バフチンなどへの先駆的な関心、文学史や文化史への理論的・比較文化論的な視点の導入（岩波全書版の『ロシア文学史』は小著だが、文学史的発展の図式に関して、当時の日本としては革命的な新説が示されている）。ただし先生の関心は、決して 20 世紀の新しいものに偏していたわけではない。川端先生はもともとフランスのディドロ研究が出発点であったことから 18 世紀にも造詣が深く、多くのロシア文学者たちがまともな文学などないと思いついてきた 18 世紀ロシアの研究にも情熱を傾けた。

こういった川端先生の存在は当時のロシア文学の世界では異端であり、「殴り込み」をかけるような勢いがあっただろう。仲間が集まり、深夜まで酒を飲み、無駄に時間を過ごすことがロシア文学者の当時の常態だったとすれば、川端先生はそんな「悪習」とは無縁であった点も異端だった。そんなわけで、どちらかと言えば悪習が好きだった私は、個人的には川端先生と酒を飲みながらバカ話の一つも、胸襟を開いて人生について語りあうこともなかったのが、心残りではある。とはいえ、面倒見が悪い先生であったわけではない。学生が本を貸してほしいといえば、鎌倉のご自宅から車で本郷までせつせと運んで来てくださった。私がいまでも大きな恩義と感じているのは、修論を書いているとき、ソ連で出たある研究書を貸していただいたことだ。マリエッタ・チュダコワの『ユーレイ・オレーシャの創作技法』という、私の修士論文にとって決定的に重要な本だが、大学の図書館に入るわけもないマイナーな出版物だった。貸していただいたことよりも、川端先生がそんな本まで個人で購入して所蔵されていることに私は驚嘆した。

本への情熱は私が川端先生から受け継いだ数少ない美点(?)の一つかもしれない。ただし、川端先生より 20 歳以上も年下の私が、本を買いすぎて置き場にもお金にも困り、もう本など買いたくないと早くも思うようになって、先生の本への情熱は衰えることなかった。晩年のある時、「先生のように関心が広がったら、買うべき本が次々に出て、どうしようもなくなるのではありませんか？ さすがに本を買い集めたいという欲望は衰えてきませんか？」とぶしつけな質問をしたことがあるのだが、先生はさりと「いや、そんなことはないね」と答えた。そういえば、あの頃は年に一度、正月に教え子たちが訪ねて来ると、必ず「今年こそは博士論文を書きあげたい」と意欲を燃やされていた。先生、生前はあまりに世の雑事に忙しく、好きな本に取り囲まれて博論にじっくり取り組む時間がないままでしたが、どうか天国で『ロシアにおけるディドロ』を完成させてください。

沼野充義（東京大学名誉教授・名古屋外国語大学副学長）

# 2021 年度研究大会

## 10 月 16 日(土)、17 日(日)

### 大阪大学・箕面キャンパスにて開催

### 自由論題報告募集

2021 年の研究大会は、10 月 16 日（土）・17 日（日）に大阪大学・箕面キャンパス（箕面市船場東 <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/oumode/minohnewcampus/minohmobility/view>）にて開催されます。研究大会の情報に関しては、随時、学会ウェブサイトを通じてご案内します。なお、新型コロナウイルス感染症関連の状況によっては、開催の時期・形態の変更（延期、オンライン開催など）もあり得ることをご了承ください。

#### 1. 共通論題テーマ：「旧ソ連、東欧のジェンダーの諸相」（仮）

2021 年度研究大会では旧ソ連及び東欧のジェンダーの状況に焦点を当てます。ジェンダーに関して多岐にわたる分野で研究が行われています。ロシア・東欧学会に隣接する学会でもジェンダー関係の研究にたずさわる、あるいは関心のある人は年々増えているように思います。しかし、ロシア・東欧学会において共通論題のテーマやジェンダーに特化した発表はこれまでなかったと言っても過言ではないと思います。そこで、今回の共通論題では、旧ソ連、東欧のジェンダー研究をできるだけ幅広く議論し、この機会にジェンダー研究を広く発信できればと考えています。具体的には、ジェンダーの諸相を過去編と現在編に分け、歴史、文化、社会、経済、政治等の分野の専門家の報告を予定しています。詳細についてはプログラムで発表いたします。（企画委員長・五十嵐徳子）

\*2021 年度の研究大会企画委員は、以下の会員で構成されています（五十音順）。

五十嵐徳子（委員長）、神原ゆうこ、小森宏美、中村唯史、藤原克美、溝口修平

#### 2. 自由論題報告募集（6 月 30 日締め切り）、若手会員には旅費等を支給

自由論題報告を希望される会員は、①氏名、②住所、③電話番号、④所属、⑤報告タイトル、⑥報告要旨（約 400 字）を 6 月 30 日（水）（必着）までに企画委員会・五十嵐のメールアドレス

([n-igaras@sta.tenri-u.ac.jp](mailto:n-igaras@sta.tenri-u.ac.jp)) へメールでお知らせ下さい。なお、応募者多数の場合は、企画委員会にて人数調整を行う場合があります。また上記の通り、大会の時期・形態に変更があり得ることにご留意ください。

自由論題報告を行う若手会員に旅費等の助成を行っています。5万円を上限として、交通費、宿泊費、懇親会費などが助成の対象となり、飛行機を利用したパック旅行も適用されます。院生はもとより、専任・常勤職を持たない40歳未満の若手会員も対象となります。また、2020年度以前に助成を受けた方も再応募は可能ですが、2021～2023年度の間の利用は一回のみとなります。応募する方は、報告の採択後に、学会サイトの「研究大会」ページに記載の要領に従って、学会事務局会計担当宛て申し込んでください。多くの若手会員の皆様のご利用をお待ちしております。

## 『ロシア・東欧研究』

## 『Japanese Slavic and East European Studies』

### 投稿募集中

締め切りは9月15日

JSSEES との統合により従来からの『ロシア・東欧研究』に加え『Japanese Slavic and East European Studies』への論文、研究ノート、書評の原稿を募集しています。『Japanese Slavic and East European Studies』は欧文雑誌となっております。応募締め切りは9月15日、原稿提出期限は11月末日です。研究大会における自由論題報告者のみならず、多くの会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。また、投稿時点において40歳未満の方は、自動的に若手研究者奨励賞（賞状、副賞5万円）の選考対象となります。執筆要領については、学会HPまたは学会誌巻末の「投稿規程・執筆要領」をご覧ください。

『ロシア・東欧研究』、『Japanese Slavic and East European Studies (JSEES)』は2019年から刊行後すぐに電子ジャーナル化されることになりました。両誌とも創刊号から、日本最大級の総合電子ジャーナル・プラットフォームJ-STAGEにて電子アーカイブ化が完了しております。

学会誌に掲載予定の書評は、学会ウェブサイトにて先行掲示を行うこととなりました。また、書評用の書籍は、事務局ではなく、編集委員会宛に直接ご送付いただきますようお願いいたします。ただし、書評として取り上げるかどうかは、編集委員会の判断によります。

**問い合わせ・申込み先：ロシア・東欧学会 会誌編集委員会**

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学外国語学部ロシア語学科 湯浅 剛 研究室

電話 (湯浅研究室直通) 03-3238-3978

電子メール (『ロシア・東欧研究』担当) jareesboard.jp@gmail.com

(JSEES 担当) murakami@lang.osaka-u.ac.jp

# 最近の理事会の議事録より

(学会 HP「会議」ページに掲載済み)

## I. 2020 年度第 2 回理事会議事録 (2021 年 3 月 22 日対面・オンライン併用開催)

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター大会議室 (4F) / Zoom ミーティング

中村唯史副代表理事による司会、田畑伸一郎代表理事による挨拶で理事会が開始された。

1. 中村副代表理事から提案された「ロシア・東欧学会理事会内規」(学会 HP「会則」ページ参照)が、原案通り制定(2021 年 3 月 22 日施行)することが承認された。
2. 入会希望者 4 名、退会希望者 4 名、事務局に連絡のあった逝去会員(元会員を含む)4 名、休会希望者(継続を含む)2 名について、武田メンバーシップ担当から報告があり、入会・退会・休会、それぞれについて承認された。(入会者詳細については学会ニュースレター参照)
3. 3 年以上会費未納者について、武田メンバーシップ担当から報告があり、再度退会の意思を確認したうえで、除籍ないしは相応の対応をとることが承認された。その結果、2 名が会員継続、1 名退会、2 名除籍となった。
4. 2020 年度学会会計の中間決算について横川会計担当から報告があり、了承された。続いて 2021 年度予算案について、横川会計担当から提案があり、JCAS および JCASA の分担金の支払いが次年度も不要であることを踏まえて、該当する予算項目の修正を行うことで了承された。(2020 年度中間決算、2021 年度予算案の詳細は、学会ニュースレターを参照)
5. 2020 年度研究大会の決算収支報告が、田畑 2020 年度大会組織委員長から報告があり了承された。
6. 2021 年度役員選挙管理委員会について、事務局からコロナ禍を踏まえて新潟市内で完結する人選が提案され選挙管理委員長に富山栄子理事が選任された。つづいて富山委員長から推薦のあった志田仁完会員(ERINA)、中谷昌弘会員(新潟大学)が選挙管理委員に選任された。また事務局から提案された選挙管理日程についても了承された。
7. 故・中村泰三氏寄付金を活用したサマースクール案が、田畑代表理事から提案され、それについて様々な意見が出された。これらの意見を踏まえて、最終的な公募要領と申請書を整え、4 月に理事会メール審議に付した後に、5 月に公募を開始することが承認された。つづいて、サマースクールの応募学生選考委員兼企画運営委員に、鴻野わか菜理事、下斗米伸夫理事、廣瀬陽子理事、堀江典生理事、田畑代表理事が選任された。
8. 2021 年度研究大会が 10 月 16 日(土)、17 日(日)、大阪大学箕面キャンパスで開催されることが、藤原大会組織委員長から報告された。大会組織委員に、五十嵐徳子理事、高橋健一郎会員(大阪大学)、横井幸子会員(大阪大学)が就任することが承認された。

9. 2021年度研究大会の共通論題テーマについて、「ジェンダー、ダイバーシティ、人権」をキーワードとする案が採択され、企画委員長に五十嵐徳子理事、企画委員に小森宏美理事、中村唯史副代表理事、藤原克美理事が選任された。さらなる企画委員の追加については、企画委員会に一任することが了承された。
10. 2021年度研究奨励賞選考候補論文が事務局から発表され、選考委員に油本真理理事、徳永昌弘会員、兵頭慎治理事、宮澤淳一会員、吉井昌彦理事が選任された。後日、選考委員の互選により選考委員長は、吉井昌彦理事が就任することとなった。
11. 「編集委員会規程」の改正案が、中村副代表理事から提案され、会誌2誌それぞれに編集委員長を任命することに修正したうえで継続審議とすることとなった。「会誌（ロシア・東欧研究）投稿規程」の改正案について、中村副代表理事ならびに大串副編集委員長から提案があり、両氏の原案どおり承認された（学会HP「会則」ページ参照）。つづいて、大串副編集委員長より提案された「会誌（ロシア・東欧研究）執筆要領」の改正案が原案通り承認され（学会HP「会則」ページ参照）、「ロシア・東欧学会投稿論文審査内規」の改正提案については、一部文言の修正を施したうえで、原案通り改正することが承認された。
12. 会誌編集状況について、『ロシア・東欧研究』誌大串副編集委員長ならびに『JSEES』誌ヨコタ村上副編集委員長から、両誌ともに順調に進んでいるとの報告がなされた。
13. その他
  - (1) 田畑代表理事より JCREES 幹事会報告として、JCREES 新代表幹事に池田嘉郎幹事（ロシア史研究会代表）が選出されたこと、池田 JCREES 新代表幹事から、今後は各学会から JCREES に2名担当役員を選出し、そのうち1名を女性役員とする提案を各学会で議論してほしい旨の要請があったことが報告された。理事会では、本件について様々な意見が交わされ、継続協議することとなった。理事会で議論された様々な意見を田畑代表理事から JCREES に報告することが了承された。
  - (2) JCAS および JCASA 総会について、担当の小森理事から総会に出席したことが報告された。
  - (3) 会誌『JSEES』誌の刊行の再考について、雲・同誌編集委員から議論提案があり、理事会でさまざまな意見が交わされた。この問題については、後日、ヨコタ村上副編集委員長、雲編集委員、道上事務局長とで作成する会員アンケート調査を実施したうえで、継続協議とすることが了承された。

以上

## 新入会員（敬称略・受付順（ニューズレター前号以降））

no	氏名	所属	現在の具体的な研究テーマ	推薦者(署名順)	
1	Beliakova Elena	合同会社U&L	日露会議通訳者養成制度確立のための提言	黒岩幸子	木村崇
2	斎藤慶子	日本学術振興会	フルシチョフ期ソ連のバレーに関する文化政策	宇山智彦	油本真理
3	横井幸子	大阪大学	ロシア語教育, 言語教育政策	中村唯史	藤原克美
4	高橋健一郎	大阪大学	ロシア音楽史, 日ロ対照言語研究	藤原克美	沼野充義
5	Boštjan BERTALANIČ	城西大学	パリ講和会議後の欧州国境確定プロセスと日本外交	宇山智彦	柴宜弘
6	堀田 主	ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE)	欧州安全保障協力会議とソ連外交, 1985～1991年	大串敦	矢口啓朗
7	新井洋史	公益財団法人環日本海経済研究所	北東アジア地域協力を通じたロシア極東地域発展の展望	田畑伸一郎	道上真有
8	河本和子	一橋大学経済研究所 ロシア研究センター	社会主義経済体制が持つ政治体制上の意義の解明	五十嵐徳子	藤原克美
9	ゴルシコフ・ピクトル	新潟県立大学・国際経済学部	ロシアのキャッシュレスエコノミーに関する研究, ロシア金融制度への信頼に関する研究	溝端佐登史	横川和穂

## 事務局からのご連絡

1. 理事選挙郵便投票の予告  
2021年3月22日理事会議事録にある通り、選挙管理委員会が発足いたしました。6月頃に選挙管理委員会から、学会HPで選挙日程が告示、皆様のお手元に投票用紙が届けられます。投票ならびに投票用紙の返送にご協力をよろしくお願いいたします。
2. 会誌『JSEES』に関する会員アンケートへのご協力のお願い  
2021年3月22日理事会議事録にある通り、会誌『JSEES』に関する会員アンケートを実施することが理事会で決定されました。会員アンケートの実施要領については、協議中です。詳細が決まりましたら、学会メーリングリストと学会HPでご案内いたしますので、ご協力をよろしくお願いいたします。
3. ログインID, PWを紛失された方、会員種別や住所の変更登録、会費納入等のお問い合わせは、  
学会支援機構（ロシア・東欧学会専用アドレス [jarees@asas-mail.jp](mailto:jarees@asas-mail.jp)）へメールでご連絡ください。  
学会HPトップページならびに学会HPの「よくあるご質問(FAQ)」ページもご参照ください。

### ●お問い合わせ先

学会支援機構（ロシア・東欧学会事務委託先）：[jarees@asas-mail.jp](mailto:jarees@asas-mail.jp)

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F  
Tel: 03-5981-6011 Fax: 03-5981-6012

ログインなさるとご自身で納入状況や登録状況の確認、住所等の変更が可能です。会員種別の変更など一部ご自身で変更できないものについては、上記問い合わせ先に変更をご依頼ください。

なお、海外在住会員に限りクレジットカード払いによる会費納入も受け付けております。お申し出の際は、上記問い合わせ先に直接メールでご連絡ください。

会費振込領収書とは別に会費領収書の発行が必要な方は、その希望を振込書に記載するのではなく、上記問合せ先ならびに当事務局（連絡先末尾参照）にメールでご依頼ください。

4. 学会 HP の各種届出フォーム

入会、休会、退会、学会 ML の登録アドレスの変更などは、学会 HP の「各種届出フォーム」のページから各種届をご提出ください。また、学会 HP の「よくあるご質問 (FAQ)」ページもご参照ください。

5. 日本学術会議からのご案内について

日本学術会議メールニュースや各種イベント・助成・懸賞募集告知、提言、声明など、日本学術会議からのご案内や同会議に関する当学会の活動などを学会 HP で掲示しています。詳しくは学会 HP 「日本学術会議関連」のページをご参照ください。

6. イベントなどの告知依頼について

会員の方への各種告知のご依頼は、当事務局（連絡先末尾参照）までご連絡ください。学会 HP の「お知らせ」欄に掲載させていただきます。

**《編集後記》** 皆様、コロナの第 4 波の拡大で、生活、仕事、様々な面で再び困難に直面しておられるかと思えます。どうぞお体ご自愛くださいませ。今年度の研究大会の自由論題募集をご案内いたしました。開催形式はまだ決まりませんが、ふるってご応募をお願いいたします。今年度は理事選挙の年で、6 月頃には会員の皆様に投票用紙を郵送いたします。今回は学会誌『JSEES』誌に関する会員アンケートも実施する予定ですので、投票、アンケート回答へのご協力をお願いいたします。(道上)



ロシア・東欧学会ニュースレター 第41号 (2021年5月発行)

《発行》ロシア・東欧学会事務局 事務局長 道上真有

郵便物送付先：〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 新潟大学経済学部  
道上真有研究室気付

E-mail : [jarees\\_office@yahoo.co.jp](mailto:jarees_office@yahoo.co.jp) HP : <http://www.jarees.jp/>

ゆうちょ銀行 (加入者名：ロシア・東欧学会) :

郵便局での払込：00150-8-177731 他行からの送金：019 店 当座預金 0177731

事務局メンバーシップ担当 (武田友加) email: [membership@jarees.sakura.ne.jp](mailto:membership@jarees.sakura.ne.jp)

事務局会計担当 (横川和穂) email: [kaikei@jarees.sakura.ne.jp](mailto:kaikei@jarees.sakura.ne.jp)

学会支援機構 (ロシア・東欧学会事務委託先) email: [jarees@asas-mail.jp](mailto:jarees@asas-mail.jp)

よくあるご質問 <http://www.jarees.jp/faq/>